

[曲 名] Serenatella Spagnola

スペイン風セレナテルラ

[曲 種]

[作曲者] Enrico Marucelli

エンリコ・マルチェルリ

[編曲者]

作者は1988年イタリア・フィレンツェに生まれ、1907年此処で逝くなった優れたマンドリニスト、ギタリストで、且つコントラバス奏者で作曲家。

貧しい黒檀細工師の家に生まれたが、少年の頃から音楽の才能を示したが、

フィレンツェのケルビーニ音楽学校に通い作曲と和声を学び此処を卒業、その後も諸教授に学んで精進した。

優れたコントラバス奏者として名声を拍したが、折しもイタリアに於けるマンドリン楽勃興の時に当たり、

かのルイジ・ビアンキの絶妙なマンドリンの演奏を聞いたり、

カフェでの旅廻りの楽人、道化師の演奏等に惹きつけられて次第にマンドリンに情熱を傾けていった。

困難な技術であればある程彼は気に入ってそれを克服していった。

又ピアノ（弱）フォルテ（強）に対して実に表情豊かに演奏して美しい効果を出したと云う。

ローマにあつて音楽評論家、作曲家として活躍したかのマリオ・バッチは「彼のマンドリンから霞のように選る美しい音、

又コントラバスを喜ぶ楽しげな彼、そこには、全く天衣無縫の素質が見られた」と述懐している。

暫く英国に渡り数年間マンドリンの教授をして、その間メッツァカーポと共に其他の婦人合奏団の指揮をして成功を収めたが、

此処の気候風土と過労は彼の健康を害し、故郷フィレンツェに帰るの余儀ないことになり僅か30才の若さで亡くなった。

然し作品にはマンドリン独奏曲、合奏曲、ギター独奏曲、歌曲等夥しい数に上っている。

最も著名なものは、マンドリン独奏曲「幻想的円舞曲」「ジプシイ綺想曲」であろう。

本曲もフィレンツェのヴェンテュリーニから出版を見たものでボーンによれば、1900年ロンドンのセント・ジェームスホールで開かれた500人のメンバーによる

大合奏によるSpa nola（自作）は大成功を収めたとあるのは本曲を指すものと推定される。

原編成は第一第二マンドリン、マンドラ、ギターにピアノを加えたものであるが、之を友人のレイジ・フィランギに捧げた。

ジプシー音階其他にスペイン色濃厚で作者の多才が窺われる。

セレナテルラはセレナータの縮小詞。

1969年10月31日発行

イタリアのマンドリンアンサンブル佳曲百曲集第一集より